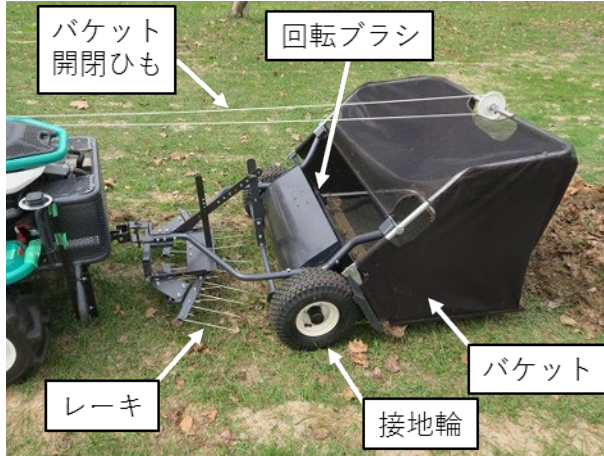


リンゴ黒星病の発生低減に貢献 ーリンゴの落葉収集機で効率よく9割除去ー

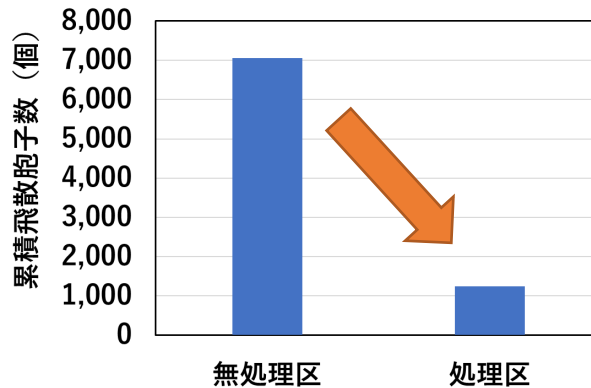
- ・ リンゴ黒星病の発生源となる落葉の収集機を開発。
- ・ 手作業の約30倍の作業能率でリンゴの落葉を収集。
- ・ 雪解け後の地面に張り付いた落葉に対し、8～9割の除去率を達成。
- ・ 落葉を収集することにより、リンゴ黒星病の原因菌の飛散孢子数が大幅減。

研究機関：農研機構、株式会社オーレック、地方独立行政法人青森県産業技術センター



今回開発した収集機の外観

乗用型草刈機けん引による作業の様子



- 1) 累積飛散孢子数：1日当たり3.5cm²の両面テープに張り付いた孢子を計数
- 2) 処理区：落葉除去割合8～9割（目視による）

落葉収集によるリンゴ黒星病原因菌の飛散孢子数の変化例
(2019年4月18日～6月9日、青森りんご研究所内の樹園地にて調査)

導入により期待される効果

リンゴ黒星病の発生低減には、発生源となる落葉を収集し、樹園地の外に搬出することが有効であるが、作業従事者の減少により実施が困難となっていた。今回、効率的なリンゴの落葉収集機が開発されたことにより、発生低減に大きく寄与することが期待される。収集機は2022年3月に市販開始。